

# 共済事業

# たすけあいビジョン 2030

# 第 8 次中期計画

(第 9 回通常総会議決)

## 目次

たすけあいビジョン 2030／第 8 次中期計画本文 .....	1
たすけあいビジョン 2030／第 8 次中期計画補助資料 .....	23
たすけあいビジョン 2030 イメージリーフ .....	40



## 共済事業たすけあいビジョン 2030／第 8 次中期計画

### 構成

- I. はじめに
- II. たすけあいビジョン 2030
  - 1. たすけあいビジョン 2030
  - 2. たすけあいビジョン 2030 の実現に向けて取り組む 4 つの課題
- III. 共済事業第 8 次中期計画
  - 1. 第 7 次中期計画（2016-2018）の振り返り
  - 2. 組合員を取り巻く情勢
  - 3. 第 8 次中期計画基本方針
  - 4. 第 8 次中期計画重点課題
  - 5. 中期計画を進めるために
  - 6. 具体的執行課題及び検討を進める課題
  - 7. 第 8 次中期計画数値目標

## I. はじめに

- (1) 「共済事業たすけあいビジョン 2030／第 8 次中期計画」は、2017 年 9 月の理事会において設置された中期計画検討委員会において、計 5 回にわたって検討作業を行い、2018 年 9 月の第 6 回理事会に答申されました。
- (2) 2018 年 6 月～7 月の「共済推進のための専務理事会議」や各ブロックでの学生事務局メンバーとの会議等で討議を深め、意見集約を行うとともに、第 6 回理事会が答申を受けたものを 10 月の各ブロック「総会議案検討会議」で討議いただき、第 9 回通常総会（2018 年 12 月 15～16 日開催）において議決されました。
- (3) 共済事業第 8 次中期計画は、2010 年に大学生協共済連が分離・独立してから、3 回目の中期計画となります。第 6 次、第 7 次の中期計画では、悲願であった新入生生命共済 15 万人加入の達成、全国共済月間の実施、共済代理店（会員生協の共済窓口）の役割の明確化と支援体制の確立、費差損<sup>1</sup>の解消など、設定した課題のいくつかを達成することができました。現在は新入生生命共済 16 万人加入をめざし、また 2019 新共済に向けた準備を進めています。
- (4) 今回、第 8 次中期計画の策定にあたり、新たに「たすけあいビジョン 2030」を設定することとしました。第 8 次中期計画は「たすけあいビジョン 2030」の第 1 クォーターに位置付けます。そして、わたしたち大学生協の役職員・組織委員が大切にし、向こう 3 年間でより発展させるべき実行計画をまとめることとします。

<sup>1</sup> 費差損＝受入れた付加掛金と実際にかかった事業経費（人件費、物件費、共済業務委託手数料）の差額による損失のこと

■ 検討委員会開催状況

回	開催日	主な議題
1	2017.12.13	第 8 次中期計画策定にあたって、第 7 次中期計画概要と中間振り返り
2	2018.02.13	第 7 次中期計画の振り返り、たすけあいビジョン 2030／第 8 次中期計画策定に向けて
3	2018.05.07	たすけあいビジョン 2030／第 8 次中期計画 1 次案について
4	2018.07.20	たすけあいビジョン 2030／第 8 次中期計画 2 次案について
5	2018.09.13	たすけあいビジョン 2030／第 8 次中期計画 2 次案について

■ 検討委員（敬称略）

委員長 寺尾 善喜 共済連専務理事	委員 毎田 伸一 大学生協連専務理事
委員 千葉 公治 東北学院大生協専務理事	委員 須田 浩之 2018 学生常勤
委員 中島 達弥 京都大生協専務理事	委員 佐々木直人 2018 学生常勤
委員 島崎 雄二 東京学芸大生協専務理事	委員 田中 利佳 2018 学生常勤
委員 山本 昌也 三重大生協専務理事	委員 中山 拓登 2018 学生常勤
委員 加納 史吹 鳥取大生協専務理事	委員 平野 伸彦 東京ブロック事務局

## Ⅱ. たすけあいビジョン 2030

### 1 たすけあいビジョン 2030

わたしたちの共済の想い（共済連設立趣意書より）

学生みんなが健康で安全に大学生活をおくることができるように  
もしものときは、経済的にも精神的にも支援ができるように  
給付を受けた人も、受けなかった人も、共済の活動を通じて「たすけあいのこころ」を実感し社会に  
巣立ってほしい  
人の気持ちを思いやれる人間になってほしい

わたしたちは先輩たちが 40 年前に生み、そして育てあげてきた大学生協共済<sup>2</sup>の事業と活動を、2020 年につなぎ、そして 2030 年まで選ばれ続け、存続している事業と活動として、広げ続け、強め続け、次世代につないでいくことを「たすけあいビジョン 2030」として宣言します。

＜次世代に共済事業をつないでいく時代の転換点に立っている＞

1980 年 …… 保険の共同購入から保障事業を開始（翌 1981 年共済事業開始）

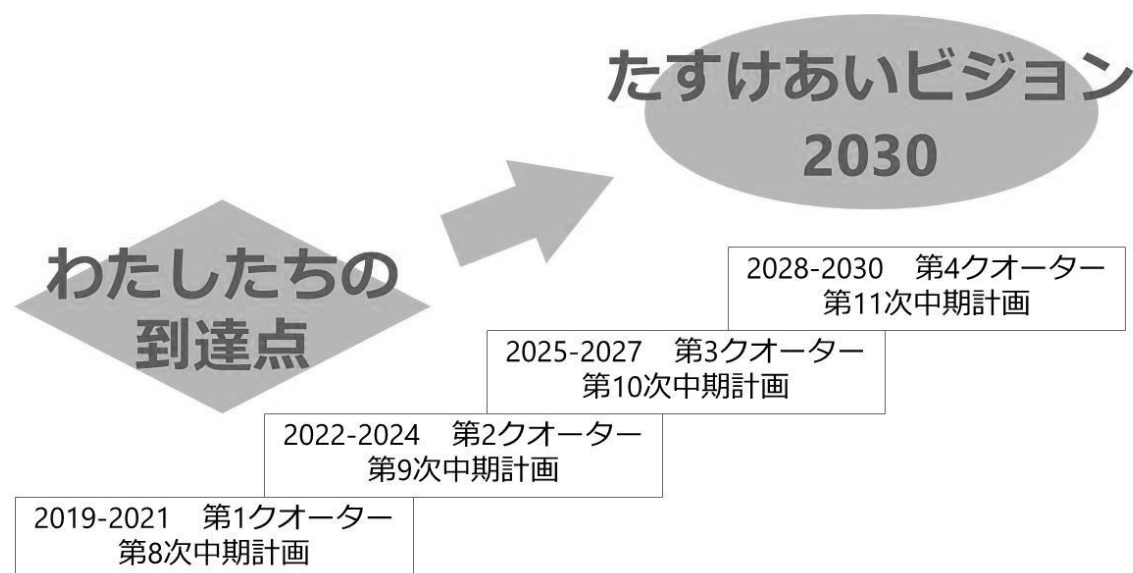
2020 年 …… 共済事業開始から 40 周年の節目 →2020 年につなぐ

2030 年<sup>3</sup>… 共済事業開始から 50 周年の節目 →2030 年までつなぐ

なぜ、2030 年か？

- 大学生協の共済事業開始（保険の共同購入）から半世紀。
- 今 20 歳の学生は 32 歳に。社会づくりの中心的存在に。
- 国際連合では SDGs<sup>4</sup>を掲げ、「誰一人取り残さない」社会づくりを提起している。

わたしたちは、「たすけあいビジョン 2030」の実現に向けて、共済事業中期計画をつないでいきます。  
第 8 次中期計画をビジョンの第 1 クォーターに位置づけます。



<sup>2</sup> 今中期計画より、大学生協の共済を「大学生協共済」と総称することとします。

<sup>3</sup> 2030 年は、48 歳前後の生協職員が 60 歳前後に、20 歳の学生が 32 歳で親になる頃、小学 1 年生が大学生になる頃

<sup>4</sup> SDGs=持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）。2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された 2016 年から 2030 年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための 17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っている。

たすけあいビジョン 2030 : "わたしたちの大学生協共済は 2030 年にはこうなっていきたい"

〔1〕 たくさんの学生による"たすけあいの輪"が実現し、大学生協共済の学業継続やキャンパスライフへの貢献度が高まっている。

～たすけあいの輪でつくりあうキャンパスライフ～

〔2〕 たくさんの声と参加がつながって、学生どうしの"たすけあいの想い"が全国の大学キャンパスに響き渡っている。

～組合員・加入者の声と参加があるからこそ、広がるたすけあいの想い～

〔3〕 学生が学び成長し、多くの大学からの共感を得て、大学や社会に対して大学生協の価値の発信がなされている。

～大学生協共済との関わりで育まれる学生の成長～

## 2 たすけあいビジョン 2030 の実現に向けて取り組む 4 つの課題

1. 学生一人ひとりの学業継続やキャンパスライフに貢献する
2. 大学や社会における相互扶助や協同の精神を育む
3. 大学生協共済の事業と活動を通じて大学生協の価値を高め、大学に貢献する
4. 「大学生協の 4 つの使命から展開する 21 世紀 8 つのビジョン」の実現の一翼を担う

### 1. 学生一人ひとりの学業継続やキャンパスライフに貢献する

#### (1) 学生支援・学業継続を支援する共済

- ① 総合的な保障制度の普及を通じて、無保障の学生をなくし、学業中断への対処の枠組みをキャンパスに広げている。
- ② 学生に万が一の事項が生じた際には、キャンパス内の大学生協が優しく相談に応じている。
- ③ 「予防活動」に旺盛に取り組む中で予防効果を高め、万が一の際には、給付を受ける学生への心のケアが大学生協らしく展開されている。
- ④ 時代や社会環境に対応して、学生を取り巻くリスクに対応した制度改善が継続されている。

#### (2) 学生の成長につながる共済

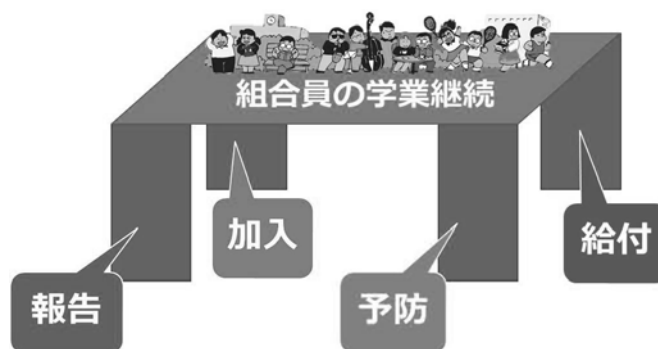
- ① 学生が「予防活動」に主体的に参加する過程を通じて、生きる力が培われている。
- ② 学生生活を取り巻くリスクに対するコミュニケーションを通じて、リスクリテラシーが高まっている。

- ③ 食育との連携が広がり深まり、健康増進の取り組みを通じて、心身の健全な成長につながっている。
- ④ 「予防活動」やリスクコミュニケーションや健康増進の取り組みへの関わりを通じて、協同する力をもった人格の形成につながっている。

## 2. 大学や社会における相互扶助や協同の精神を育む

### (1) たすけあいの想い、おもいやりの心を社会に広げる共済

- ① 大学生協共済の「4 本柱の活動」を通じて、人の温かさやふれあい、つながりを体感して、たすけあいの想い、協同の人格が培われた多くの大学生が社会に巣立っていった。
- ② 大学生協共済では、技術の進歩（AI や Fintech<sup>5</sup>）への確実に対応しながらも、「4 本柱の活動」を通じた人間的な関係づくりを大切に、温かい社会につなげる役割を通じて、社会へ貢献している。
- ③ 大学生協での組合員経験、大学生協共済への参加経験を通じて協同組合に対する理解を深めた学生を協同組合につないでいっている。



### (2) 協同する力をもとに広げる共済

- ① 学生どうしの協同～学生どうしが協同する力で「4 本柱の活動」が全国のキャンパスに広がっている。
- ② 大学との協力～大学と大学生協が協同する力で学業継続・学生支援の枠組みが強まり、広がっている。
- ③ 協同組合間協同～協同組合間協同を力にして、大学生協共済がすべての学生を対象に広がっている。
- ④ 想いを同じくする協同のネットワーク～学業継続・学生支援に想いを同じくする企業や団体との協同のネットワークが広がっている。

## 3. 大学生協共済の事業と活動を通じて大学生協の価値を高め、大学に貢献する

### (1) 顔が見える<sup>6</sup>、みんなでつくるわたしたちの共済

- ① 顔が見える加入～学生が学生に、直接対話の場面を通じて、共済の良さを、実感をもって伝える取り組みが、すべての会員生協で展開されている。
- ② 顔が見える予防～学生が学生に、給付事例の学習や学生のリスクに基づいた、創意工夫溢れる予防活動が、すべての会員生協で展開されている。
- ③ 顔が見える給付～学生が学生に、困った様子の学生を見かけたら声をかける習慣がキャン

<sup>5</sup> Fintech= Finance（金融）と Technology（技術）を組み合わせた造語であり、ファイナンス・テクノロジーの略。  
「ICT を駆使した革新的あるいは破壊的な金融商品・サービスの潮流」などの意味

<sup>6</sup> ここでの「顔が見える」は、人と人がつながっているという意味で用いています。

パスに拡大し、すべての会員生協の窓口で、学生に寄りそう相談業務が行われている。

- ④ **顔が見える報告**～給付（共済）ボードをはじめとした学生への報告、アニュアルレポートをはじめとした大学への報告、様々な地域社会への発信が、すべての会員生協で展開されている。
- ⑤ みんなでつくることでの満足向上に～給付を受けなかった学生も、仲間の学業継続に役立ててよかったと実感が持てる取り組みが全国に広がっている。

## (2) 大学と協力して進める共済

- ① 大学生協共済の事業と活動の大学への報告が、すべての会員生協で旺盛に展開されて、大学との連携が進み、予防の取り組みやメンタルヘルスへの対応、健康づくり・健康増進の取り組みが、多くのキャンパスで広がっている。
- ② 大学や大学の連携する関係団体とも連携して、無保障の学生をなくす視点でのネットワークの形成に積極的に関与し、その中で大学生協（共済）が中心的なパフォーマンスを発揮している。（経済的困窮者／国際学生／合理的配慮が求められる障がい者への対応など）
- ③ 大学がすすめる最低限の保障（多くの大学で学研災・学研賠）に対する学生生活に必要な補完保障として、多くの大学で大学生協の保障制度が選択され、大学と大学生協の協業が広がり、深まっている。

## 4. 「大学生協の4つの使命から展開する21世紀8つのビジョン」の実現の一翼を担う

<b>協同</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●協同の力で豊かなキャンパス生活を創造する大学生協</li> <li>●協同をつうじて自由なコミュニケーションを促す大学生協</li> </ul>
<b>協力</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大学に協力して高等教育と研究の発展に貢献する大学生協</li> <li>●自らも学びのコミュニティとして教育と研究に協力する大学生協</li> </ul>
<b>自立</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自立した事業組織として大学とその周辺社会を活性化する大学生協</li> <li>●自立した魅力ある事業の展開で、豊かな社会と文化の展開に貢献する大学生協</li> </ul>
<b>参加</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●組合員の参加を活発にし、協同体験を広めて、人と地球にやさしい持続可能な社会をつくる大学生協</li> <li>●組合員の参加をふまえた運動組織として、国際交流と平和に貢献する大学生協</li> </ul>

(1) 多様な大学生活をさまざまな事業でサポートする大学生協において、大学生協共済だからこそできることが発揮される共済

(2) さまざまな事業との関わりで、大学生協の取り組み・価値をより強めていく共済



## Ⅲ. 共済事業第 8 次中期計画

### 1 第 7 次中期計画（2016-2018）の振り返り

#### (1) 数値目標の到達状況

	2015	2017	2018 目標
①生命共済新入生加入者数	14.3 万人	15.3 万人	16.0 万人
②新入生の過半数が共済に加入	133 生協	158 生協	207 生協
③給付事例学習会の実施	25 生協	96 生協	150 生協
④給付（共済）ボードの実施	115 生協	150 生協	180 生協
⑤学生の共済募集人	159 生協	149 生協	180 生協
⑥学調 <sup>7</sup> での共済認知度	62.8%	69.1%	70.0%
⑦共済証書の発送日短縮	23.4 日	20.3 日	20.0 日
⑧共済金支払日数の短縮	11.8 日	9.7 日	8.0 日
⑨大学への報告	46 生協	156 生協	207 生協

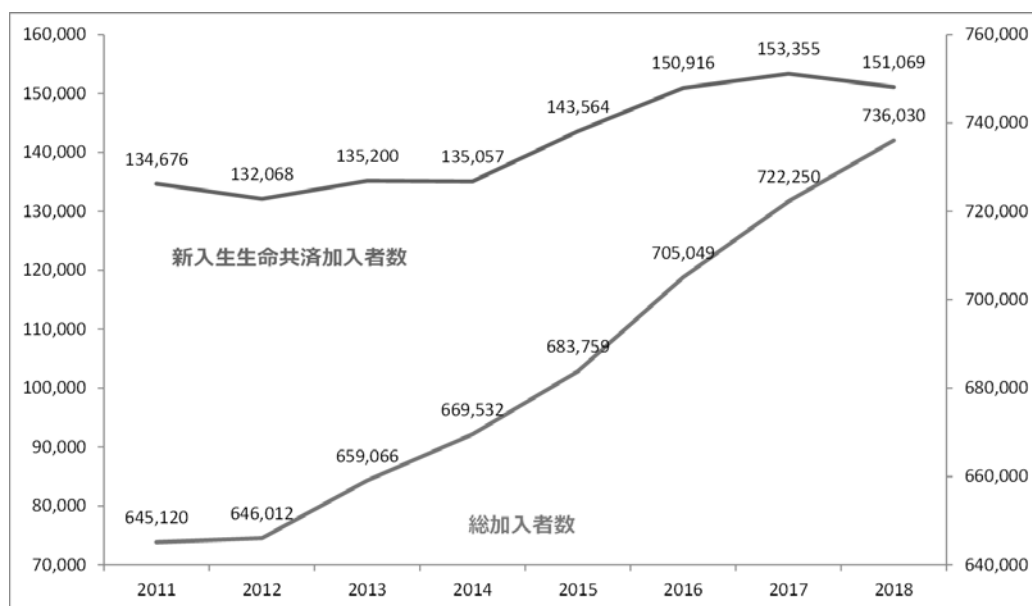
#### (2) 加入者について

- ① 新学期の新入生生命共済加入は、中期計画初年度の 2016 年度に待望の 15 万人加入を達成することができ、2017 年度には 153,355 人まで到達しました。2018 年度には、前年より後退したものの、3 年連続で 15 万人加入を達成することができました。前進した主な要因は、①早期対策（早期準備と AO・推薦対応）の前進、②振込加入・Web 加入を推進するためのさまざまな工夫、③保護者説明会（入学準備説明会）の実施会員生協の増加と対面で共済加入を推進、④「住まい紹介」の場面で生命共済加入を位置づける取り組みの広がり、⑤生命共済掛金を印字する共済未加入者 DM の広がり、⑥国公立後期発表以降の取り組みの広がり、等があげられます。また、会員生協や地域によって取り組み等の違いがある中で、さまざまな経験・教訓を広く学びあい、大学生協の新学期活動全体を成功させる中で、共済の推進を位置づけ取り組んだことです。
- ② 2015 年度から 2018 年度までで、総加入者数は 68.3 万人から 73.6 万人（過去最高）に増加しました。また、継続率は 98%と高い水準を維持しています。共済金の支払では、件数（43,036 件⇒44,002 件）・金額（33.6 億円⇒34.0 億円）とも微増となっています。
- ③ 困っている学生が直接相談に来られる身近な窓口の存在を大切に、加入者との接点を大切にした窓口業務を進めることをめざして、2016 年度から第 6 次中期計画の課題の一つであ

<sup>7</sup> 学調=学生の消費生活に関する実態調査。全国大学生協連が、大学生の生活や意識、行動を明らかにし、学生生活をより充実したものにするために 1963 年から学生を対象として行っている。

った「会員生協（代理店）と共済連の日常業務分担の明確化」方針<sup>8</sup>を実施しました。

- ④ 共済・保険サポートダイヤルに寄せられた組合員からの声を業務改善につなげるため、「組合員の声に基づく業務改善検証会議<sup>9</sup>」を毎月開催し、業務改善を図ってきました。また、共済金の支払を受けた組合員の声である「たすけあいアンケート」は、会員生協での給付（共済）ボードや加入案内、共済連のホームページで発信されています。
- ⑤ 制度改定は、2017 年度にインターネット加入及び共済掛金のクレジットカードによる決済を可能とする改定（厚生労働大臣認可）を行いました。また、2019 年度からは、生命共済では事故通院 1 日目からの保障等の改定、こころの早期対応保障<sup>10</sup>の新設や、火災の保障を共済から保険（学生賠償責任保険の特約化）にすることなど、大幅な改定を行いました。



### (3) 会員生協について

- ① 各生協の予防活動は、給付事例学習会や給付（共済）ボードの取り組みが広がりました。給付事例学習会は、全国や地域の共済セミナー等での学びあいもあり、2017 年度では 96 生協（2015 年度は 25 生協）で取り組み、第 7 次中期計画で提起して以降急速に広がり、会員生協の日常の活動や新学期の加入推進活動にもいかされています。給付（共済）ボードについても、2017 年度では 150 生協（2015 年度は 115 生協）で取り組まれています。一方で、共済金支払事例では、急性アルコール中毒と精神疾患の支払件数が増加しており、今より一歩進めた取り組みが求められています。
- ② 中期計画の目標の一つである共済認知度の向上をめざし、2014 年度より会員生協と共済連で「全国共済月間」を 4 年間実施してきました。期間中、会員生協では自転車無料点検・

<sup>8</sup> 「会員生協（代理店）と共済連の日常業務分担の明確化」方針＝①会員生協で担う共済業務の整理と業務分担設定→会員生協で行う通常の共済業務を通常業務と規定し、会員生協の状況により絞り込んだ最小限の業務を必須業務として、すべての会員生協窓口が共済に関する受付を行う。②会員生協実務をバックアップする共済連の役割→共済連は、必須業務会員向けに「必須業務マニュアル」の作成、研修、必須業務専用フリーダイヤル「共済ホットライン」の開設を行う。

<sup>9</sup> 組合員の声に基づく業務改善検証会議＝共済連の部内会議。専務理事を主幹に毎月開催。共済・保険サポートダイヤル等に寄せられた加入者からの意見・要望を検証し、業務改善に活用している。

<sup>10</sup> こころの早期対応保障＝2019 新生命共済（BF 型）から新設。精神疾患の治療を目的とし、精神科専門療法の診療を初めて受けたときに、1 共済期間に 1 回 10,000 円保障

食生活相談会等の予防活動が行われ、会員生協の食堂・店舗を通じて、組合員に広く共済を知らせる取り組みが行われました。2017年度の学調では、「共済を知っている」と答えた（共済認知度）組合員が69.1%（2015年度は62.8%）となり、もう少しで中期計画の目標70.0%を達成できるところまでできています。また、全国共済月間は、会員生協が各地域及び全国の共済セミナーで学んだことを組合員に向けて実践する機会となっており、会員生協の活動にも位置づけられてきました。

- ③ 会員生協間の学びあいは、毎年500名規模で行われる全国共済セミナーを中心に、学んだことを会員生協で実践できることを重視して進められてきました。全国セミナーと連携した各地域の共済セミナーが各ブロックで行われ、他の会員生協の優れた取り組みを学ぶことも進み、全国セミナーの学びがさらに広がっています。

#### (4) 共済連について

- ① 2015年度の共済制度改定で付加掛金<sup>11</sup>の割合を引き上げました。結果、2016年度及び2017年度決算において、積年の課題となっていた費差損を解消することができました。しかし、出た費差益はわずか（0.5億円）であり、また2018年度はシステム基盤整備と新共済・保険への対応で費用がかかり再び費差損となり、さらなる経営改善が求められます。
- ② 加入者の増加に伴い、財務の強化を進めてきました。2015年度末から2018年度末までの3年間に、共済連の総資産は247.9億円から310.0億円に増加しました。共済事業の健全性を示す支払余力比率<sup>12</sup>も943.3%から1209.8%に上がっています。巨大災害や急激な加入者数の減少など、想定を超える事態に対しては、経常剰余金23.9億円、異常危険準備金<sup>13</sup>35.7億円、財務基盤強化積立金<sup>14</sup>47.9億円の合計107.5億円で備えることとなります（2018年度決算）。
- ③ 組合員へのサービス強化、業務の効率改善、受電率<sup>15</sup>向上のため、2014年10月より共済・保険サポートダイヤルの業務のすべてを外部の専門業者に委託し、2016年度にはIVR<sup>16</sup>を活用し、その時期に多いお問い合わせについてのご案内を音声ガイダンスで案内できるようになりました。また、よくいただくお問い合わせ内容を分析し、共済連のホームページでお応えできるようにしました。
- ④ 共済連事務局は、定年退職者の増加（2016年5人、2017年1人、2018年8人）に伴う世代交代に対応し、会員生協からの移籍と合わせて、年2回の中途採用を行い職員の確保に努めてきました。また、研修担当の職員を配置し、職員の業務遂行力のレベルアップの研修を強めてきました。

	2017 実績	2018 実績	2019 予測	2020 予測	2021 予測	2022 予測	2023 予測
正規職員	55	65	66	60	56	50	44
再雇用職員	16	16	15	18	17	22	23
合計	71	81	81	78	73	72	67

（表：共済連・保険サービス9月末での正規職員・再雇用職員の人数）

<sup>11</sup> 付加掛金＝共済掛金のうち事務費等（人件費・物件費・共済業務委託費）にあてる部分の掛金のこと

<sup>12</sup> 支払余力比率＝通常の予測を超えたリスクに対応できる「支払余力」を有しているかどうかの一指標。厚生労働省が定めている「消費生活協同組合法施行規則」に基づいて算出しており、200%以上必要とされている。

<sup>13</sup> 異常危険準備金＝共済掛金は過去の死亡率や発生率を基礎として計算されますが、これらは経験的なものであって、これを超える異常な事態の発生に備えて積み立てる責任準備金のこと

<sup>14</sup> 財務基盤強化積立金＝自己資本力の強化と不測の事態に対応する資金として積み立てている任意積立金

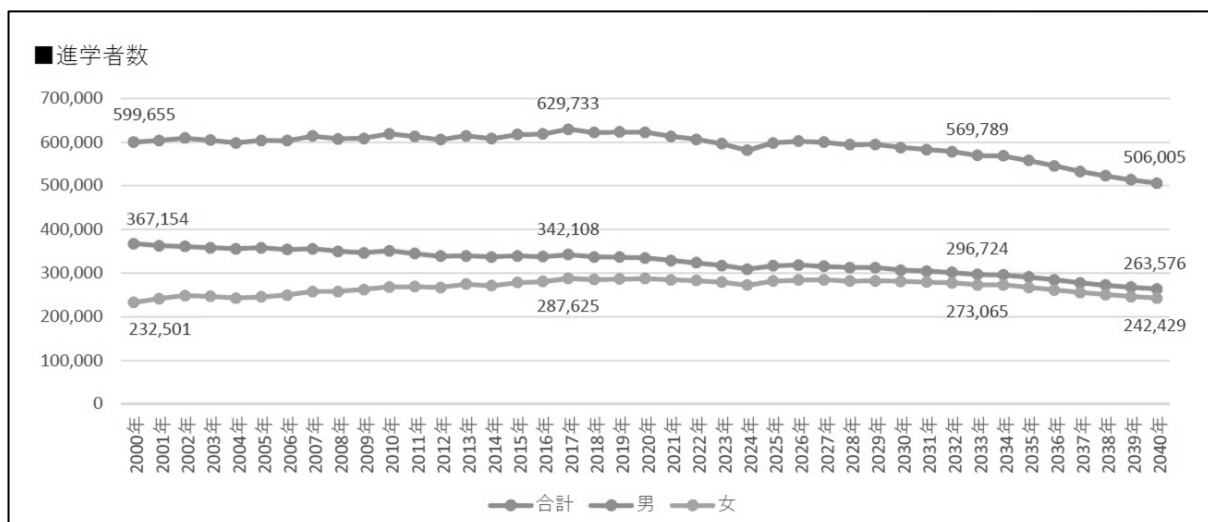
<sup>15</sup> 受電率＝共済・保険サポートダイヤルにおいて、入電（着信）数に対し、受電対応者（オペレータ）が電話を取り対応した数の割合のこと

<sup>16</sup> IVR（Interactive Voice Response）＝発信者のダイヤル操作に合わせて、あらかじめ録音してある音声を発信者側に自動的に再生するコンピュータシステム

## 2 組合員を取り巻く情勢

### (1) 18 歳人口減少突入（2018 年問題）と大学の動向

- ① 政府の各種統計によると、2018 年より 18 歳人口は減少を始め、2040 年には 3 割近くまで減少するとの見通しを示しています。しかし、文部科学省では、大学進学者数は進学率の向上を見込み 2040 年には 2 割程度の減少に留まると推計しています。
- ② 現在の入学定員が維持されると仮定した場合、大学全体の定員充足率は 17 年度の 104.4% から 83.9% に下がると推計されます。文部科学省は、大学の連携や統合を進める必要があるとして、国立大のグループ化や私立大の学部譲渡などを検討しているところです。一方で、いくつかの国立大学で法人統合の検討が始まりました。
- ③ また、いくつかの私立大学では、収益改善のために事業法人（大学の子会社）を設立して、学内業務の内製化や学生向けサービスの収益事業化を始めています。学生向けサービスでは、大学生協の行う事業との競合が発生しています。



### (2) 組合員の生活

- ① 学生の経済状況は引き続き厳しい状態が続いています。大学生協連の「第 53 回学生の消費生活に関する実態調査」（2017 年実施）では、収入では小遣いや仕送りなど親の負担が減っているのに対し、アルバイト収入が増加しています。特に下宿生のアルバイト収入は 1970 年以降最高となっています。また、支出では貯金・繰越が 6 年連続で増加しており、より節約志向は高まっているといえます。今後、2019 年 10 月には消費税率が現在の 8% から 10% に上がることになっており、学生の経済状況はますます厳しくなることが予測されます。
- ② 共済金の支払状況を見ると、病気入院では、消化器系と呼吸器系の疾患で半数近くをしめています。一番多い病気は自然気胸となっています。消化器系疾患では、急性虫垂炎、親知らずの抜歯、胃腸炎が多い事例となっています。また、精神障害も少しずつ増加しています。精神障害による平均入院日数は 54.4 日で、精神障害を除く病気の平均入院日数 9.1 日に比べて非常に長くなっています（2017 年度）。

- ③ 国による「留学生 30 万人計画<sup>17</sup>」、さらにその一環としてスタートした「グローバル 30<sup>18</sup>」により、日本の高等教育機関に在籍する外国人留学生は 2017 年度 188,384 名（2014 年度 139,185 名）となっています。また、日本学生支援機構（JASSO）による、私費外国人留学生生活実態調査によれば、ケガや病気にあった留学生は 61.2%となっており、留学生の健康や安全にも目を向ける必要があります。

### **(3) 共済・保険を巡る情勢**

- ① 2022 年 4 月から成人年齢が 18 歳に引き下げられることになりました（改正民法の施行）。大学生協共済の事業においては、契約や共済金支払に関わる事項が学生本人であったり、扶養者の方であったりと実態に合わせて柔軟に運用してきた経過がありますが、改正民法施行に対応したルールの整備が今後求められることとなります。
- ② 2016 年 5 月に施行された改正保険業法は契約者の保護を目的としたルール整備であり、保険を募集する際、顧客の意向を把握するとともに、加入するかどうかの判断に役立つ情報提供を義務付け、それらを正しく運営できる代理店としての態勢を整備することを通じて適正な保険販売につなげる目的があります。今後、共済においても募集にあたり同様の動きがある可能性も想定し、その動向を注視し、適切な対応を進めることが重要です。
- ③ また、子ども向けの保険や共済の加入率は年々上昇しており、大学入学時に新入生は何かの保険や共済に加入していることを前提とした、学生の学業継続を支える保障の提案がますます必要になってきています。

### **(4) 大学生協全体の動き**

- ① 11 月に 6 つの事業連合が合併し大学生協事業連合が設立されました。各地のブロック連帯のあり方について、整備が進んでいくことになります。共済事業においても、各地のブロック連帯に寄り添いながら学生・職員の活動に関わっていく必要があります。

---

<sup>17</sup> 留学生 30 万人計画＝日本への留学生を 2020 年までに、当時の 14 万人から 30 万人に増やそうという計画。当面の 5 年間で大幅な拡大を目指している。

<sup>18</sup> グローバル 30＝日本の国公立大学を対象とした文部科学省が実施する支援事業のひとつ。世界的な人材獲得競争が激化するなか、日本の大学の『国際競争力』を高め、魅力的な教育内容を提供することで、『能力の高い留学生』を世界中から日本に集め、外国人留学生と日本人学生が「切磋琢磨」する環境を、日本国内に設けることで、『国際的に活躍できる人材の養成』を実現することを目的とする。こうした、質の高い大学教育・充実した留学生の受入れ体制を提供する大学の取組みのうち、特に優れたものを審査の結果、選定・採択し、国際化拠点の形成に向けて国が支援する事業

**今こそ共済の出番です。**

**たすけあいビジョン 2030 を言葉と行動で伝え、そして示し、  
たすけあいの実感を広げる 3 年間にしましょう**

この間、わたしたちの共済は、多くの加入者を迎え、新学期等の活動を通じて、少しずつ大学・保護者にも一定の評価をいただけるようになってきています。

しかし、わたしたちの共済の想いや、たすけあいビジョン 2030 で示すありたい姿は、加入者が増え、共済金の支払が増えている今こそ、さらにキャンパスに広げることが大切です。

わたしたちの共済事業は単に共済の加入を受け付け、何かあったときに共済金を支払うだけではありません。組合員が組合員に共済をおすすめし、組合員の参加で予防活動を行い、組合員の声と参加で「4 本柱の活動」を進めることと合わせて成り立っていくものです。このような組合員がともに協力して進める取り組みは、組合員が安心して学び・研究できる生活の基盤を組合員の相互扶助で支えあう、生活協同組合そのものの事業といえます。

また、たすけあいアンケートでいただく「加入していてよかった」という感謝の声は、ケガや病気にあって共済金が支払われた方だけが持つ実感で、ケガや病気にあっていない方に対しても「加入していてよかった」、「自分の出したお金が、自分に返ってこなくても、仲間のために使われて良かった」と思える共済をめざして、キャンパスで組合員に向けた取り組みをより具体的に進めることが必要です。これらの大学生協の共済事業が持つアイデンティティを、組合員・大学・社会に伝え、共感を広げることが求められます。

また、2021 年新学期から、日本コープ共済連（以下、コープ共済連）と学生総合共済の共同引受<sup>19</sup>を行い、コープ共済連と協力・協同して共済事業を進める検討と準備を行っています。共済金の支払や共済・保険サポートダイヤルの運営に係る加入者対応、あるいはシステムの管理・運用等の後方支援業務においての安定を確保し、加入者への安心を整える意義もあります。

たすけあいビジョン 2030 に掲げるありたい姿の実現に向けて、第 8 次中期計画の 3 つの基本方針を設定します。

**方針 1 学生一人ひとりの学業継続やキャンパスライフへの貢献を強めます。**

- 「学生支援・学業継続を支援する共済」の実現
- 「学生の成長につながる共済」の実現

**方針 2 大学や社会における相互扶助や協同の精神を育みます。**

- 「たすけあいの想い、思いやりの心を社会に広げる共済」の実現
- 「協同する力をもとに広げる共済」の実現

**方針 3 共済の事業と活動を通じて、大学生協の価値を高め、大学に貢献します。**

- 「顔が見える、みんなでつくるわたしたちの共済」の実現
- 「大学と協力して進める共済」の実現

<sup>19</sup> 共同引受=複数の元受団体（共済者）が、共同して共済契約を引受けること。再保険や再共済と異なり、各団体は共済契約者に対し、それぞれの引受割合（額）に応じた共済責任を単独個別に持ちます。通常は代表して 1 つの団体が事務、管理等を行う。

## 4 第 8 次中期計画重点課題

第 8 次中期計画基本方針 3 項目の具体化に向けて、3 つの重点課題を設定します。

- (1)「顔が見える」4 本柱の活動を大切に、たすけあいをキャンパスに広げます。
- (2)加入者に寄り添う共済窓口での相談業務を行い、迅速な共済金支払を行います。
- (3)コープ共済連との学生総合共済を共同引受する構想の具体化のための準備を進め、2021 年度新学期からの共同引受開始をめざします。

### (1)「顔が見える」4 本柱の活動を大切に、たすけあいをキャンパスに広げます。

- ① **顔が見える報告**～共済事業を通じて明らかになる学生のリスクの実態や健康・安全活動を組合員・大学・理事会と共有しましょう
  - すべての会員生協で、新学期や総代会（総会）の終了時に行う大学への報告を目的意識的に進め、共済の推薦、新学期活動や予防活動に結びつけます。
  - たすけあいアンケートのデータ化を行い、給付を受けた人の声をより活用できる取り組みを進めます。
  - 給付（共済）ボードなど会員生協の取り組みと合わせて、共済連ホームページの活用を通じた「共済金支払状況の報告と、掛金が他の組合員の役に立ったこと」の組合員への報告を強め、給付を受けなかった組合員へ「たすけあい参加」を共有します。
  - 総代会（総会）・理事会への報告を行い、専務理事や共済担当以外の生協関係者へ共済の認知を進めます。
  - 全国共済月間では、広く大学・社会に大学生協共済を知らせるため、組合員が直接参加できる企画も進めます。
- ② **顔が見える予防**～ケガや事故・病気にあわない取り組みを組合員・大学とともに進め、キャンパス・社会にたすけあいを広げましょう
  - 給付事例学習会の取り組みを多くの会員生協で行い、一つひとつの給付事例を「自分にも起こりうること」と引きつけてとらえ、共済の給付状況から見える大学生のケガ・病気の状況を分析し、給付（共済）ボード等でより多くの組合員に知らせ、予防活動に結びつけます。
  - 大学、地域、関連団体と協力し、大学生協としての急性アルコール中毒（アルコールハラスメント）ゼロ、自転車事故防止、メンタルヘルスの取り組みを重点に進めます。
  - 全国共済月間を中心に、予防活動、健康企画の拡大を進めます。合わせて、学生・生協職員が協力して加入や共済金請求忘れゼロに結びつく取り組みを進めます。
  - 事業連合と協力して、会員生協の食堂と連携した食生活提案を進めます。
  - 大学が行う学生の健康づくりの取り組みに協力できるよう、検討を行います。
- ③ **顔が見える加入**～多くの組合員をたすけあいの輪に迎えましょう
  - すべての会員生協で、新入生の過半数の加入をめざします。引き続き目標を新入生比で国公立 70%、私立 50%に設定します。2019 年新学期で 16 万人を達成し、2021 年新学期には 17 万人の加入目標が見通せる水準（新入生比 60%）をめざします。

- 会員生協の新学期の取り組みを総合的に進める中で、より多くの共済加入者を迎えます。
- 全国 Web 加入システムの取扱いを広げ、加入推進に貢献します。また、新学期以外でも共済に加入できるよう、Web による共済連が直接加入を受け付けるしくみを検討します。
- 大学院生や高専生に対しての加入推進を位置づけて行います。

④ **顔が見える給付**～「入っていてよかった」と思える組合員のための給付活動を進めましょう

- 加入者に寄り添い相談できる共済窓口の役割への転換を進め、発生頻度が低く難易度の高い業務から共済連対応への一本化を進めます。
- 会員生協の共済窓口と、共済・保険サポートダイヤルの相互連携を進め、迅速な共済金支払を実現します。
- 春休み・夏休み中の共済金支払の対応を強めるため、2019 年 7 月よりインターネットの活用による共済金支払受付を実施します（共済金請求 Web 受付）。
- 春休み、夏休み明けでの呼びかけを行い、共済金請求忘れゼロの取り組みを組合員参加で進めます。
- 共済金支払情報、事故受付情報（途中経過含む）の会員生協窓口での見える化を行い、大学・理事会・組合員への報告や給付事例学習会に結びつけます。

**(2) 加入者に寄り添う共済窓口での相談業務を行い、迅速な共済金支払を行います。**

会員生協の共済窓口を、共済金支払受付を中心とした業務から、相談対応の強化及び組合員への発信を行う業務への機能の転換を進めます（2020 年 9 月より）。共済連では、年間を通じた迅速な共済金の支払業務を進めるとともに、会員生協の業務を支援します。

理由は、迅速な共済金の支払いのため（ケガや病気で困った方へいち早く共済金をお支払いし、少しでも学業復帰の手助けを強める）、会員生協の業務の負担を軽減し、事務リスクの低減を進めるため（要配慮個人情報<sup>20</sup>、センシティブ情報<sup>21</sup>を会員生協で管理しないことや研修会参加の軽減など）、共済金申請忘れゼロの取り組みや 4 本柱の活動など、組合員に近いキャンパスで進めた方が効果のある取り組みを会員生協が行いやすくするためです。

- ① 会員生協では、組合員に近いキャンパスで効果のある業務へシフトします。窓口では共済金の案件審査業務から、共済金支払等の相談業務への移行を進めます。また、学生等組織委員と生協職員が協力して、加入推進、予防活動、報告活動の業務や共済金申請忘れゼロの取り組みを進めます。
- ② 共済連では、【会員生協での案件審査→共済連での確定審査】の行程を短縮し、迅速な共済金の支払を行います。また、申請件数の少ない、夏休み・春休みの対応を共済・保険サポートダイヤルで行い、迅速な共済金の支払を行うとともに、会員生協窓口業務の負担を軽減するとともに、システムを活用して、事故受付～共済金支払の進捗状況について会員生協への報告を行います。

<sup>20</sup> 要配慮個人情報＝「本人の人種、信条、社会的身分、病歴、犯罪の経歴、犯罪により害を被った事実その他本人に対する不当な差別、偏見その他の不利益が生じないようにその取扱いに特に配慮を要するものとして政令で定める記述等が含まれる個人情報」

<sup>21</sup> センシティブ情報＝共済では保健医療等の特別な非公開情報のこと。一般的には、政治的見解、信教（宗教、思想および信条）、労働組合への加盟、人種および民族、門地および本籍地、保健医療および性生活、ならびに犯罪歴に関する情報のこと



**(3) コープ共済連との学生総合共済を共同引受する構想の具体化のための準備を進め、2021 年度新学期からの共同引受開始をめざします。**

- ① 地域生協と大学生協の連携を行い、コープ共済→学生総合共済→コープ共済の保障制度と組合員活動の連携を構想します。
- ② 現共済の事業規約・細則を微調整し、コープ共済連・大学生協共済連双方の組織が、同じ制度（商品）の事業規約等の認可の取得をめざします。
  - 学生総合共済を 2 者で共同引受することをめざします。
  - 共済事業の基幹的システムはコープ共済連のシステムを利用し、コープ共済連システムの中に学生総合共済システムを構築し、基盤や業務品質の一体化をめざします。

## 5 中期計画を進めるために

### (1) 推進体制の整備

- ① 会員生協全体で共済に取り組む体制の整備を進めます。
  - 共済担当以外の職員・学生が共済の基礎を学び、生協全体の取り組みにつなげます。
- ② 会員生協で旺盛な活動を進めるため、ブロック（地域共済委員会）を中心とした学びあい・励ましあいが進むよう、ブロックでの共済推進体制の整備を進めます。
  - 各ブロックでより効果的に活動・業務を進めるため、共済連の理事会委員会を整備・再編します。地域共済委員会は、各ブロックでの実態に即した形でより会員生協の実践に結びつく体制づくりを行います。全国共済委員会は、日常活動・加入推進・共済セミナーを中心に具体化・検討を進める理事会委員会とし、全国学生委員会との連携を図ります。
  - 理事会を軸とした運営を進めます。各ブロックから理事（会員代表者）を選出し、地域での共済推進に力を発揮していただくとともに、各地の声を理事会に集中し、政策立案に結びつけます。また、引き続き大学生協連理事会との協力・連携を行います。
- ③ 共済セミナーや共済担当者研修集会を軸とした、各地域・全国での学びあいを進め、共済事業に関わる役職員・組織委員等の知識向上に取り組みます。
  - 会員生協の窓口担当の職員は、共済事業を支える大切な存在です。多くの会員生協では、パート職員の方が共済窓口を担当されていますが、新学期加入推進、加入者対応の他、共済契約や給付に係る重要な書類の管理、理事会への報告、組織委員会との協力、共済に関する知識の取得、研修会の参加等、その業務は多岐に渡ります。一方で、世代交代の課題もあります。共済連では、ブロックとも協力し、会員生協窓口での業務の効率化や負担軽減を進めるとともに、会員生協の窓口担当の方が「共済担当でよかった」と思えるような研修・交流の機会を設定します。

### (2) 協力関係の構築

- ① 大学への報告を重ね、「無保障の学生をなくす」協力関係づくりを進めます。
- ② 新学期の会員生協の事務作業の標準化・効率化のため、事業連合と協力し、全国規模での事務センターの設置を検討します。
- ③ 引き続き、コープ共済連との連携の具体化のための準備を進めます。

### (3) 保険事業の活用

- ① 留学生向け保険の開発を検討します。
  - 現在の共済＋全国保険制度<sup>22</sup>では、保障については一定の対応は可能ですが、多言語対応（契約書類、共済金支払、共済・保険サポートダイヤル対応等）及び1年未満の加入に係る事務コスト増等は、掛金設計に大きく影響し、共済で行うのは極めて困難です。

<sup>22</sup> 全国保険制度＝学生賠償責任保険、扶養者死亡保障保険（2019年より就学費用保障保険）、学業継続費用保険（2019年より扶養者所得保障保険）のこと

- ② 自前での共済では実現が困難な、学生にとって必要な保障を大学生協として提案するために、必要な場合は、全国保険制度のように、他団体・取引先と連携・協力して大学生協オリジナルの保険を造成し、活用します。
- ③ 一方、保険サービスで行っている仕組化保険の取扱については、業務の効率化・優先順位の観点での見直しを検討し、全国保険制度、あんしんサポート 24<sup>23</sup>、会員生協向け保険（管財保険等）への集中を図ります。

#### (4) 業務体制（共済連事務局）の整備

- ① 加入者満足向上のため、共済連の業務品質の向上に努めます。加入者からの声（共済・保険サポートダイヤル含む）・会員生協からの声や、事件事故の教訓から業務改善を進めます。
- ② 2018 年 9 月 30 日現在、共済連の職員は 65 人ですが、この 3 年間でおよそ 2 割の 12 人が定年を迎えます。中途採用及び会員生協からの移籍で職員を確保するとともに、職員の教育・研修を進めます。

#### (5) 財政

##### ① 2019-2021 の加入者推移の想定

(単位:人)	2017実績	2018予算	2019試算	2020試算	2021試算
生命共済加入者	662,144	686,120	700,000	700,000	700,000
(現共済加入者数)			350,000	250,000	150,000
(新規加入者数)			160,000	160,000	160,000
(既移行者数+継続者数)			190,000	290,000	390,000
火災共済加入者数	342,087	355,000	255,000	185,000	115,000

- 2019 年度からの新入生は 2019 生命共済契約のみとし、既契約者の 35%が新共済に移行すると想定します。2019 年度加入者は新共済 16 万人、新共済移行 19 万人、現行共済 35 万人の想定です。保有件数は 70 万人で想定しています。
- 2020 年以降の現行共済は 10 万人ずつ減少し、2022 年以降は新共済の加入者のみになると想定します。
- 火災共済の契約者は毎年 7 万人減少と想定します。

##### ② 2019-2021 の経営試算

(単位:千円)	2017実績	2018実績	2019予算案	2020試算	2021試算
共済掛金等収入	9,177,405	9,363,084	9,770,060	9,880,000	9,190,000
共済契約準備金戻入額					
資産運用収益	232,942	249,252	180,000	180,000	200,000
その他経常収益	192,114	150,121	79,600	130,000	120,000
<b>経常収益計</b>	<b>9,602,461</b>	<b>9,762,457</b>	<b>10,029,600</b>	<b>10,190,000</b>	<b>9,510,000</b>
共済金等支払額	3,427,759	3,427,193	3,461,100	4,250,000	4,120,000
共済契約準備金繰入額	6,397	128,260	468,916	90,000	260,000
資産運用費用	79,944	15,235	20,000	20,000	20,000
事業経費計	3,428,510	3,701,184	3,875,010	3,730,000	3,450,000
その他経常費用	108,679	112,110	75,200	120,000	120,000
<b>経常費用計</b>	<b>7,051,289</b>	<b>7,383,982</b>	<b>7,900,226</b>	<b>8,210,000</b>	<b>7,970,000</b>
<b>経常剰余金</b>	<b>2,551,172</b>	<b>2,399,757</b>	<b>2,129,374</b>	<b>1,980,000</b>	<b>1,540,000</b>
<b>費差損益</b>	<b>50,669</b>	<b>▲ 153,056</b>	<b>▲ 123,310</b>	<b>63,920</b>	<b>146,000</b>

- 支払共済金は、既保障は過去の平均発生率、新保障は公的統計危険率等で算出してい

<sup>23</sup> あんしんサポート 24 =大学生協で海外旅行をお申し込みされた方のみ会員になることのできる、海外旅行保険と CO-OP あんしんダイヤルがセットになった大学生協連の会費制サポートサービスのこと

ます。2019 年度は、事業年度（10 月～9 月）の関係で、4 月からの新保障を半年分反映させています。2021 年以降はコープ共済連との共同引受を想定して、試算した数値としています。2019 年新保障開始時は、2018 年計画から 3.8 億円（支払率 40.5%）の増加を、2020 年は前年から 2.7 億円（支払率 42.6%）の増加を見込んでいます。共同引受を想定した 2021 年の支払率は 46.2%と想定しています。

- 火災共済は、2019 年 4 月より新規募集を停止します。既契約者の継続契約は卒業予定年まで現行火災共済と想定し、2019 年以降は毎年 7 万人の減少と想定しています。なお、2019 年 4 月より、新入生は新保険（学生賠償責任保険一人暮らし特約）の契約となります（追加加入を含みます）。
- 償却資産で考慮すべき事項は、システム基盤整備 2.9 億円（2018 年償却開始）、2019 制度改定システム関連 7.0 億円（2019 年償却開始）で、それぞれ 5 年償却です。
- 事業経費は 2018 年度予算をベースに、2019 年度のみ人件費は態勢整備に合わせた増加を見込み、物件費は 2019 年度以降減価償却費（システム基盤整備 2018 年開始、2019 制度改定システム 2019 年度開始）、2020 年以降消費税（租税公課）2,500 万円の増加を見込み、会員生協へお支払する共済業務委託手数料は掛金収入の 13.2%を計画しています。2021 年以降は共同引受後の経費を想定しています。
- 2019 年度に制度改定に関する諸費用として 1.6 億円を計画していますが、2020 年度以降は計画していません。
- 支払備金<sup>24</sup>、未経過共済掛金<sup>25</sup>、異常危険準備金の繰入・戻入は 2020 年までは大学生協基準、2021 年以降は共同引受を想定した試算としています。異常危険準備金で事故通院共済金の評価方法の違いで約 3 億円が経常剰余に影響します。

## 6 具体的執行課題及び検討を進める課題

第 8 次中期計画を達成するために、具体的に執行する課題と、検討を進める課題を設定し、期ごとの到達課題をまとめます。別表をご参照ください。

**(1)多くの加入者をたすけあいの輪に迎え入れる加入推進の課題**

**(2)共済窓口など加入者との接点を大切にし、加入者満足を高める課題**

**(3)組合員の声を広げ、予防活動や業務改善に生かす課題**

**(4)共済の認知を高め、理解を広げる課題**

**(5)コープ共済連との連携を進める課題**

また、第 9 次中期計画は、2020 年上期中に中期計画検討委員会を設置し、2020 年下期より検討を開始します。

<sup>24</sup> 支払備金=支払義務が発生している共済金等のうち、決算期末時点で未払いとなっているものについて、その支払いのために必要な金額を積み立てる準備金のこと

<sup>25</sup> 未経過共済掛金=保障のためにまだ充当されていない共済掛金を積み立てておくもので、責任準備金の一つ

## 7 第8次中期計画数値目標

第8次中期計画の数値目標を以下のように定めます。

	2017	2021 目標
①生命共済新入生加入者数	15.3 万人	17.0 万人
②新入生の過半数が共済に加入	158 生協	すべての生協
③給付事例学習会の実施	96 生協	160 生協
④給付（共済）ボードの実施	150 生協	180 生協
⑤学生の共済募集人	149 生協	180 生協
⑥学調での共済認知度	69.1%	75.0%
⑦共済証書の発送日短縮	20.3 日	16.0 日
⑧共済金支払日数の短縮	9.7 日	8.0 日
⑨大学への報告	156 生協	すべての生協

以上

(別表) 第8次中期計画 6. 具体的執行課題及び検討を進める課題

課題 ● 会員生協と共済連で進める課題 ○ 主に共済連で進める課題		2019年度		2020年度		2021年度	
		上期 (10月～3月)	下期 (4月～9月)	上期 (10月～3月)	下期 (4月～9月)	上期 (10月～3月)	下期 (4月～9月)
(1)多くの加入者をたすけあいの輪に迎えられる加入推進の課題							
● 1	2019新学期で16万人を達成し、2021新学期には17万人の加入目標が見通せる水準に	加入者数16万人	取り組みの教訓化と学びあいの強化	加入者数16万5千人	取り組みの教訓化と学びあいの強化	加入者数17万人	中期計画の振り返りと次期の課題設定
● 2	全国加入Webの普及拡大	参加生協85生協	取り組みの教訓化と学びあいの強化	参加生協150生協 追加加入機能装備 新学期以外での展開	取り組みの教訓化と学びあいの強化	参加生協200生協	取り組みの教訓化と学びあいの強化
○ 3	全国加入Webシステムの構築	2019年システム対応 案件対応リリース 2020年対応案件検討	2020年度システム開発 2021年度システム検討 (連携との関係)	2020年システム案件 開発リリース	2020年システム対応 実施	2021年度システム公開 2022年度システム詳細設計	2022年度システム開発 2023年度システムの検討
○ 4	共済募集ルールの整備	共済募集人資格制度の見直し	新制度に沿った運用 準備	新制度での募集人資格試験開始		募集人資格試験取得 促進	
(2)共済窓口など、加入者との接点を大切にし、加入者満足度を高める課題							
● 1	共済証書発行の早期化 (払込日から証書発送日まで) 20.3日 (15.6営業日)	共済連への早期送付 の取り組み強化 エラー修正早期対応 の取り組み強化 各事務センターとの 連携強化	18.0日 (14.0営業日) 申込書のみ会員15.5 営業日 全国加入Web併用会 員11.5営業日	共済連への早期送付 の取り組み強化 エラー修正早期対応 の取り組み強化 各事務センターとの 連携強化	17.0日 (13.0営業日) 申込書のみ会員15.0 営業日 全国加入Web併用会 員11.5営業日	共済連への早期送付 の取り組み強化 エラー修正早期対応 の取り組み強化 各事務センターとの 連携強化	16.0日 (12.0営業日) 申込書のみ会員14.5 営業日 全国加入Web併用会 員11.5営業日
● 2	生命共済金支払の迅速化 (請求書類完備から入金日まで) 9.1日 (6.1営業日)	審査体制の見直し 審査スキルの向上 業務改善の推進	9.0日 (6.0営業日) 3営業日以内20%	審査体制の見直し 審査スキルの向上 業務改善の推進	8.5日 (5.5営業日) 3営業日以内30%	コープ共済連携 (2021年4月1日)	8.0日 (5.0営業日) 3営業日以内40%
○ 3	共済金請求Web受付	事務構築 ホームページ作成	2019年夏研で概要説 2019年7月運用開始	部分改修	部分改修	2020年10月 新たな窓口業務対応	大学生協独自運営
○ 4	サポートダイヤル対応品質の向上	マインド醸成 応答率の向上 AHTの短縮 苦情対応の強化	2019年度累計 ありがとう率45% (給付40%)	マインド醸成 応答率の向上 AHTの短縮 苦情対応の強化	2020年度累計 ありがとう率50% (給付45%)	マインド醸成 応答率の向上 AHTの短縮 苦情対応の強化	2021年度累計 ありがとう率55% (給付50%)

課題	2019年度			2020年度			2021年度	
	上期 (10月～3月)	下期 (4月～9月)	上期 (10月～3月)	下期 (4月～9月)	上期 (10月～3月)	下期 (4月～9月)	上期 (10月～3月)	下期 (4月～9月)
● 会員生協と共済連で進める課題 ○ 主に共済連で進める課題								
○ 5 口座不備等による契約失効の防止	全国加入Web対応 SMS連絡導入	契約失効率0.50% (2,500人以内)	全国加入Web対応 SMS連絡導入 口座登録必須化検討	契約失効率0.45% (2,250人以内)	全国加入Web対応 SMS連絡導入	契約失効率0.40% (2,000人以内)		
● 6 共済金請求忘れゼロの取り組み	全国共済月間実施	新学期における加入 の自覚を高める取組 の強化	全国共済月間実施	新学期における加入 の自覚を高める取組 の強化	共済加入者用マイ ページの検討			
○ 7 共済代理店委託業務を、会員生協窓口の実態 に合わせ最適化	業務検討委員にて実 務協議を開始	理事会協議を経て全 国協議	共済代理店業務基準 を改訂 契約実務マニュアル 改訂 給付実務マニュアル 改訂	2020年6月末 新たな業務委託契約 締結 2020年夏研から新た な業務研修	2020年10月 新たな窓口業務の運 用開始	2021年04月 コープ共済連との共 同実務開始		
● 8 加入者に寄り添う相談業務の強化	相談業務の定義と具 体化	窓口要件の再定義 (窓口タイプの基準 は、相談業務を完結 するかどうか)	2020年春研は相談業 務をメインに構成	2020年春研は相談業 務をメインに構成	新たな窓口業務の運 用開始	コープ共済連との共 同実務開始 (2022年4月の民法 改正：18歳成人対応 に留意)		
○ 9 共済代理店の指定研修参加の促進	2018年臨時研 リーダー参加率80% 2019年春研 リーダー参加率80%	2019年夏研 リーダー参加率70%	2020年春研 リーダー参加率70%	2020年夏研 リーダー参加率75%	2021年春研 リーダー参加率75%	更新研修へ移行		
● 10 共済掛金管理レベルの向上	掛金管理ツールの普 通事務センター連携 個別対応強化	2019年09月 調査継続30会員	掛金管理ツールの普 通事務センター連携 個別対応強化	2020年09月 調査継続25会員	掛金管理ツールの普 通事務センター連携 個別対応強化	2020年09月 調査継続20会員		
● 11 代理店監査指摘事項等の確実執行の指導	代理店監査 事件事故 組合員の声	2019年09月 再発防止策執行状況 の確認実施率80%	代理店監査 事件事故 組合員の声	2020年09月 再発防止策執行状況 の確認実施率85%	代理店監査 事件事故 組合員の声	2021年09月 再発防止策執行状況 の確認実施率90%		
○ 12 代理店監査の実施	10会員実施	35会員実施	10会員実施	35会員実施	10会員実施	35会員実施		
(3)組合員の声を広げ、予防活動や業務改善に生かす課題								
● 1 給付事例学習会と給付ボードの推進	学習会120 給付ボード160	小規模用学習資料の 作成	学習会140 給付ボード170		学習会160 給付ボード180			
● 2 予防活動健康企画の拡大	共済月間における実 践の強化	取組の教訓化と事例 集発行	大学地域との共同企 画の拡大	取組の教訓化と事例 集発行	大学地域との共同企 画の拡大	取組の教訓化と事例 集発行		

課題		2019年度		2020年度		2021年度	
		上期 (10月～3月)	下期 (4月～9月)	上期 (10月～3月)	下期 (4月～9月)	上期 (10月～3月)	下期 (4月～9月)
● 会員生協と共済連で進める課題 ○ 主に共済連で進める課題							
● 3	飲酒事故自転車事故防止活動	事故防止リーフレット発行	新学期の取組強化	給付事例分析	大学社会への発信	事故防止活動の全国化	大学オリエンテーションでの提案拡大
○ 4	サポーターダイヤルのフィードバック	2018年12月新共済 (BF) に関するFAQをホームページに掲載開始	継続	2019年12月共済連ホームページFAQ全面改修	継続	2020年12月新制度に関するFAQをホームページに掲載開始	
<b>(4)共済の認知を高め、理解を広げる課題</b>							
● 1	大学の理解促進と関係強化	新共済の大学への報告を全生協で	大学への報告強化 保健管理施設等との関係づくり	学長副学長の推薦文 120生協	大学への報告強化 保健管理施設等との関係づくり	学長副学長の推薦文 150生協	次期中期計画の課題 整理
○ 2	ホームページを通じた組合員への報告		HPにおける給付事例報告検討	給付実績と組合員の声報告実施	給付実績と組合員の声報告実施	給付実績と組合員の声報告実施	次期中期計画の課題 整理
○ 3	たすけあいアンケートのフィードバック	運用フロー構築	事務態勢構築 ホームページ作成	2019年10月共済連ホームページ公開開始 (月刊)	継続	継続	継続
○ 4	組合員の声のフィードバック	2018年11月理事会報告開始／苦情対応方針策定／組合員の声対応簿の改定	事務態勢構築 ホームページ作成	2019年10月共済連ホームページ公開開始 (月刊)	継続	2020年12月コープ共済連携 (スキーム統合)	
<b>(5)コープ共済連との連携を進める課題</b>							
○ 1	コープ共済連との連携	● 共同引受により連携を理事会で決定。総会で決議	共同引受制度の認可取得	共同引受に向けた準備	共同引受商品の募集開始	共同引受商品の募集開始 旧制度からの移行推進	共同引受商品の保障開始 2019制度からの全員移行
○ 2	コープ共済連連携 (共済連会計)	勘定系要件検討	勘定系システム要件確定	勘定系システム対応の準備	勘定系システム移行		
○ 3	コープ共済連連携 (共済システム)	システム要件確定へ対応	システム詳細設計へ対応	システム開発及び環境整備	システム開発及び環境整備	新学生総合共済システム稼働開始 (2021年4月) 既存加入者対応 (現共済システム)	新学生総合共済開始 (2021年4月) 既存加入者対応 (現共済システム)



# たすけあいビジョン2030 共済事業第8次中期計画

全国大学生協共済協同組合連合会



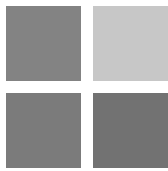
## たすけあいビジョン2030・ 共済事業第8次中期計画 とは

- 中期計画検討委員会にて、検討・起案し、  
共済連理事会より、第9回総会議案として提案  
します

### 中期計画検討委員（敬称略）

寺 尾 善 喜	委員長・共済連専務	毎 田 伸 一	大学生協連専務
千 葉 公 治	東北学院大専務	須 田 浩 之	全国学生常勤
島 崎 雄 二	東京学芸大専務	佐 々 木 直 人	全国学生常勤
山 本 昌 也	三重大専務	田 中 利 佳	全国学生常勤
中 島 達 弥	京都大専務	中 山 拓 登	全国学生常勤
加 納 史 吹	鳥取大専務	平 野 伸 彦	東京ブロック事務局

- 全国みんなで**、これまでの成果に確信をもち、  
これから取り組んでいくビジョン・中期計画に  
するため、地域討議の機会を設けてきました



# たすけあいビジョン2030・ 共済事業第8次中期計画 とは

**大学生協共済としてあるべき姿(究極的な理想)**

**中期計画**

数年間でここまでは  
目指そう！

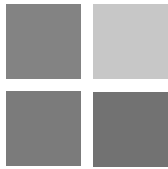
理想に向かって  
2030にはこうありたい！

**ビジョン**

**これまでの到達**



全国の大学生協の取り組みから今の到達があり、  
これから目指していくことも全国で取り組んでいくことが大切！



# たすけあいビジョン2030・ 共済事業第8次中期計画 とは

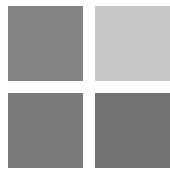
**大学生協共済としてあるべき姿(究極的な理想)**

大学生協共済連設立趣意書より

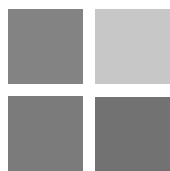
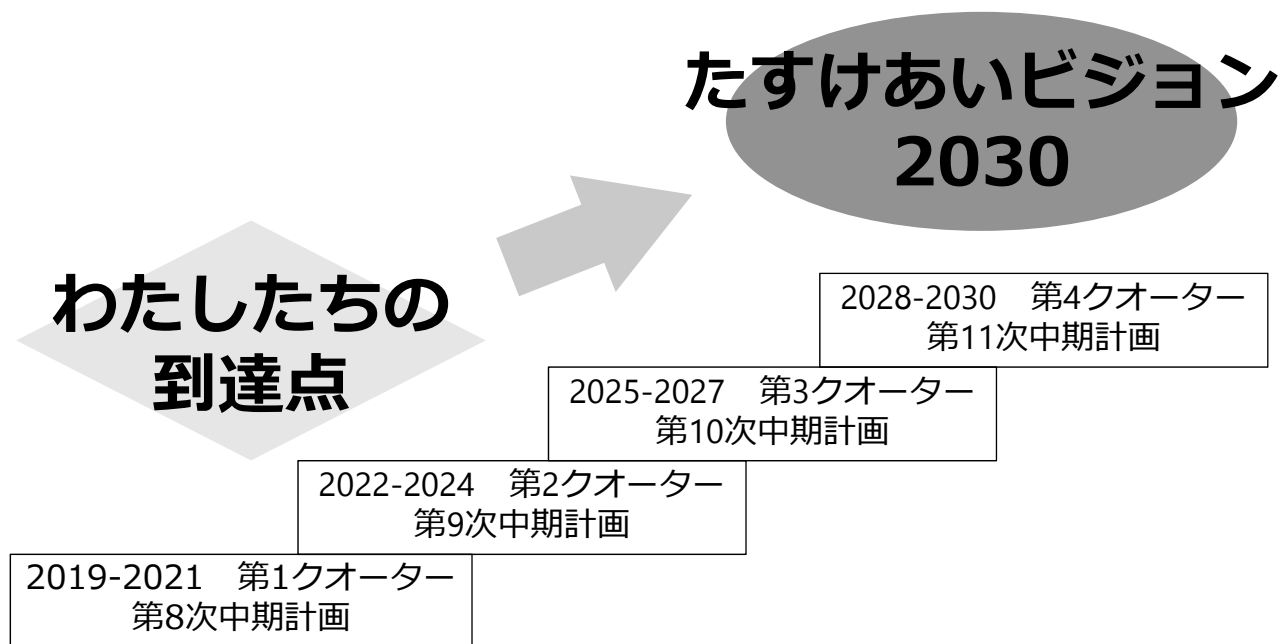
- ・ 学生みんなが健康で安全に大学生活をおくることができるように
- ・ もしものときは、経済的にも精神的にも支援ができるように
- ・ 給付を受けた人も、受けなかった人も、共済の活動を通じて  
“たすけあいのところ”を実感し社会に巣立ってほしい
- ・ 人の気持ちを思いやれる人間になってほしい

**組合員の生活に支援しつつ、  
大学と大学生協全体の発展に寄与し、  
豊かな社会づくりに貢献する**

これから目指していくことも全国で取り組んでいくことが大切！



# たすけあいビジョン2030・ 共済事業第8次中期計画 とは



# たすけあいビジョン2030・ 共済事業第8次中期計画 とは

## ●たすけあいビジョン2030

2030年に「大学生協共済はこうありたい」を  
全国の大学生協で描く

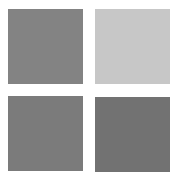
### ➤ Why 2030 ?

- ・大学生協の共済事業開始(保険の共同購入)から半世紀
- ・今20歳の学生は32歳に。社会づくりの中心的存在に。
- ・世界ではSDGsを掲げ、「誰一人取り残さない」社会をつくろうとしている。

## ●第8次中期計画

全国の大学生協のこれまでの到達から、向こう  
3年間、特に全国で取り組んでいきたいことを  
示す

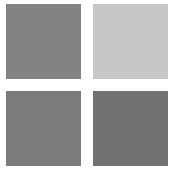
# たすけあいビジョン2030



わたしたちの大学生協共済は  
2030年にこうなっていたい

1. たくさんの学生による“たすけあいの輪”が実現し、  
大学生協共済の学業継続やキャンパスライフへの  
貢献度が高まっている。  
**「たすけあいの輪でつくりあうキャンパスライフ」**
2. たくさんの声と参加がつながって、学生どうしの  
“たすけあいの想い”が全国の大学キャンパスに広がっている。  
**「組合員・加入者の声と参加があるからこそ、  
広がるたすけあいの想い」**
3. 学生が学び成長し、多くの大学からの共感を得て、  
大学や社会に対して大学生協の価値が発信されている。  
**「大学生協共済との関わりで育まれる学生の成長」**





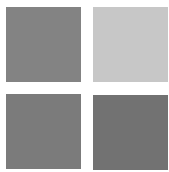
わたしたちの大学生協共済は  
2030年にこうなっていたい

◆たすけあいの輪でつくりあうキャンパスライフ

- ✓たくさんの学生が加わる共済
- ✓大学生の安心により関わることができ、  
学業継続・キャンパスライフへの貢献を高める

◆組合員・加入者の声と参加があるからこそ、広がる  
たすけあいの想い

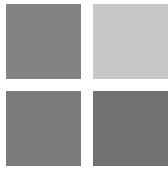
- ✓加入者の生活に寄りそう共済
- ✓加入者が自分たちで健康で安全な大学生活を実現
- ✓「わたしたちの共済」



わたしたちの大学生協共済は  
2030年にこうなっていたい

◆大学生協共済との関わりで育まれる学生の成長

- ✓協同・たすけあいの想いをはじめとした  
共済だからこそ得られる気づき
- ✓学生の生活と密接にかかわり、学生の自立へ  
つなげる
- ✓多くの大学からの共感を得て、  
大学や社会に対して大学生協の価値の発信が  
広く、強くしていきたい



## たすけあいビジョン2030の実現に向けて取り組む4つの課題

学生一人ひとりの学業継続や  
キャンパスライフに貢献する

大学や社会における相互扶助や協同の精神を育む

大学生協共済の事業と活動を通じて  
大学生協の価値を高め、大学に貢献する

「大学生協の4つの使命から展開する  
21世紀8つのビジョン」の実現の一翼を担う

学生一人ひとりの学業継続や  
キャンパスライフに貢献する

### 学業支援・ 学業継続を 支援する共済



- もしもに備える予防活動
- もしもをたすける給付
  - ✓ 優しく相談に応じる共済窓口
  - ✓ 給付を受ける学生の心のケア
- 組合員が自主的にたすけあう
- 学生を取り巻くリスクに対応した制度改善

### 学生の成長に つながる共済



- 予防活動への参加で培う生きる力
- 社会人基礎力の涵養
  - ✓ リスクコミュニケーション
  - ✓ リスクリテラシー
- 心身の健全な成長
  - ✓ 食育との連携を広げ深める
- 協同する力を持った人格

## 学生一人ひとりの学業継続や キャンパスライフに貢献する

**たすけあいの想い、  
思いやりの心を  
社会に広げる共済**



- 4本柱の活動から、人のつながりを体感
- 技術進歩に対応しながらも、人間的な関係づくりを大切に育む
- 大学生協・大学生協共済の関わりをスタートに、協同組合と学生をつなぐ

**協同する力を  
もとに広げる共済**



- 学生どうしの協同
  - ✓ 4本柱の活動を全国のキャンパスに広げる
- 大学との協力
  - ✓ 学業継続・学生支援の枠組みを強める
- 協同組合間協同
  - ✓ すべての学生に大学生協共済を
- 想いを同じくする協同のネットワーク

## 大学生協共済の事業と活動を通じて 大学生協の価値を高め、大学に貢献する

**顔が見える、  
みんなでつくる  
わたしたちの共済**



- 顔が見える加入
- 顔が見える予防
- 顔が見える給付
- 顔が見える報告
- みんなでつくることで満足の上昇に

“人と人がつながっている”  
と共済を通じて実感

- ✓ 学生から学生へ、共済のよさを直接伝える（加入）
- ✓ 給付事例やリスクに基づいた、創意工夫あふれる学生どうしの取り組み（予防）
- ✓ 困った学生を見かけたら声をかけあうことができ、窓口では学生生活に日々関わるからこそ寄りそった対応（給付）
- ✓ 学生へ共済を知らせ、大学・地域へ共済を発信（報告）
- ✓ 給付を受けなかった学生も、たすけあいの仲間の学業継続に役立つことができたという実感を持つことができる取り組みの広がり

## 大学生協共済の事業と活動を通じて 大学生協の価値を高め、大学に貢献する

顔が見える、  
みんなでつくる  
わたしたちの共済



- 顔が見える加入
- 顔が見える予防
- 顔が見える給付
- 顔が見える報告
- みんなでつくることで満足の上昇に

“人と人がつながっている”  
と共済を通じて実感

大学と協力して  
進める共済



- 共済の事業・活動の報告を  
すべての大学生協で展開しよう
- 大学と連携した取り組み  
✓ 予防活動、メンタルヘルス、健康増進
- 無保障の学生をなくす取り組みで連携
- 多くの大学で大学生協の保障制度を選択

## 「大学生協の4つの使命から展開する 21世紀8つのビジョン」の実現の一翼を担う

- 多様な大学生活をさまざまな事業でサポートする大学生協において、大学生協共済だからこそできることが発揮される共済
- さまざまな事業との関わりで、大学生協の取り組み・価値をより強めていく共済



食堂運営

店舗運営

キャリア形成支援

社会とのかかわり

生協活動への参加

共済事業

協同

- 協同の力で豊かなキャンパス生活を創造する大学生協
- 協同をつうじて自由なコミュニケーションを促す大学生協

協力

- 大学に協力して高等教育と研究の発展に貢献する大学生協
- 自らも学びのコミュニティとして教育と研究に協力する大学生協

自立

- 自立した事業組織として大学とその周辺社会を活性化させる大学生協
- 自立した魅力ある事業の展開で、豊かな社会と文化の発展に貢献する大学生協

参加

- 組合員の参加を促進し、協同体験を広めて、人と地球にやさしい持続可能な社会をつくる大学生協
- 組合員の参加をふまえた運動組織として、国際交流と平和に貢献する大学生協

- ・ 大学生協が目指すことに向けて、**共済だからできること**
- ・ ほかの事業との関わりで、**大学生協の取り組みを強められること**

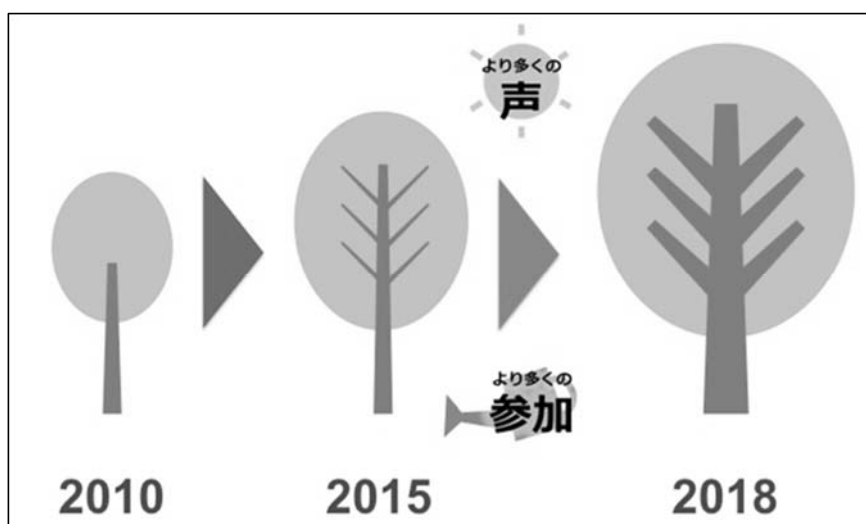


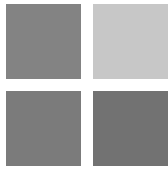
# 共済事業第8次中期計画



## 第8次中期計画の位置と役割

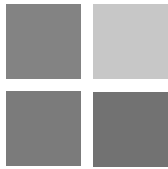
- 第7次中期計画(2016～2018)は、  
『「声と参加」で、地力を高め、共済を広げる』  
→共済をもっと広げる枝葉と幹を成長させよう！





## 枝葉と幹は成長しています ～全国のみinnで成長させてきた～

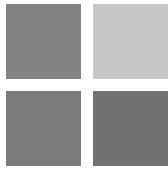
	2015	2018	2017
①生命共済新入生加入者数	14.3万人	16.0万人	<b>15.3万人</b>
②新入生の過半数が共済に加入	133生協	207生協	<b>158生協</b>
③給付事例学習会の実施	25生協	150生協	<b>96生協</b>
④給付（共済）ボードの実施	115生協	180生協	<b>150生協</b>
⑤学生の手済募集人	159生協	180生協	<b>149生協</b>
⑥学調での共済認知度	63.2%	70.0%	<b>69.1%</b>
⑦共済証書の発送日短縮	23.4日	20.0日	<b>20.3日</b>
⑧共済金支払日数の短縮	11.8日	8.0日	<b>9.7日</b>
⑨大学への報告	47生協	207生協	<b>156生協</b>



## 枝葉と幹は成長しています ～全国のみinnで成長させてきた～

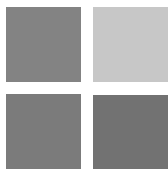
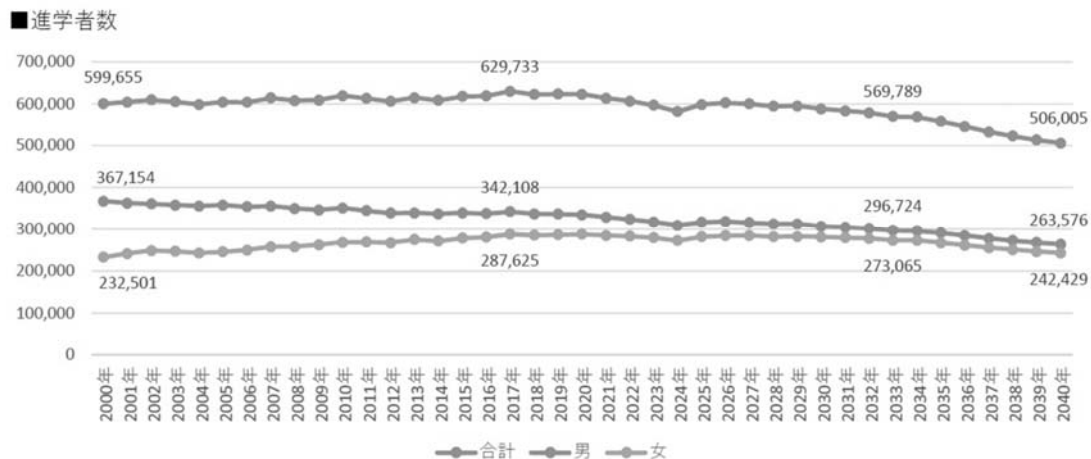
- ほかにも…
- ✓総加入者数は過去最高の73.6万人
- ✓共済金の支払では、件数(43,036件⇒44,002件)・金額（33.6億円⇒34.0億円）といずれも微増
- ✓2019年度制度改定
- ✓全国共済月間と共済認知度の広がり
- …53学調では、69.1%の組合員が共済を知っている
- ✓共済代理店役割明確化と支援体制確立
- ✓費差損解消

\* 費差損 = 予定事業費よりも実際の事業費が上回った状態



## 大学生協の共済を取り巻く環境

- 2018年より18歳人口がいよいよ減少  
→大学進学者数は進学率の向上を見込み、2040年には2割程度の減少に留まると推計(文科省)  
→大学定員の問題から、大学の連携・統合が進む？



## 大学生協の共済を取り巻く環境

- 2019/10には消費税率が現在の8%から10%に  
→学生の経済状況は決して楽ではない(第53回学調)



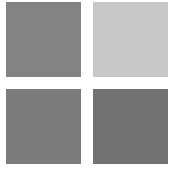
- 共済金支払状況では、自然気胸が最も多い病気。  
…精神障害も少しずつ増加。

- 成年年齢の引き下げ(2022/4)
- 民法改正
- 外国人留学生の増加



…ケガや病気にあった留学生は61.2%(私費外国人留学生生活実態調査)

- ブロック連帯のあり方と共済事業の推進

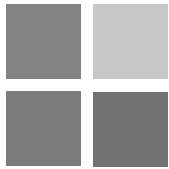


## 第8次中期計画 基本方針

**今こそ共済の出番です。**

**たすけあいビジョン2030を言葉と行動で伝え、  
そして示し、たすけあいの実感を広げる  
3年間にしましょう**

- 加入者や給付金支払が増えている今こそ広げたい共済の  
想い・たすけあいビジョン2030が示す姿
- わたしたちの共済事業は、共済加入・共済金支払だけでなく、  
4本柱の活動があつてこそ。
- 「加入してよかった」「掛金が仲間のために使われてよかった」と実感できる大学生協共済をもっと広げたい



## 第8次中期計画 基本方針

**今こそ共済の出番です。**

**たすけあいビジョン2030を言葉と行動で伝え、  
そして示し、たすけあいの実感を広げる  
3年間にしましょう**

### 方針1

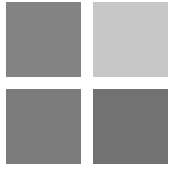
学生一人ひとりの学業継続やキャンパスライフへの貢献を  
強めます。

### 方針2

大学や社会における相互扶助や協同の精神を育みます。

### 方針3

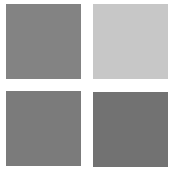
共済の事業と活動を通じて、大学生協の価値を高め、  
大学に貢献します。



## 第8次中期計画 重点課題

重点課題 … 基本方針の具体化に向けて

1. 「顔が見える」4本柱の活動を大切に、たすけあいをキャンパスに広げます。
2. 加入者に寄り添う共済窓口での相談業務を行い、迅速な共済金支払を行います。
3. コープ共済連との新・学生総合共済を共同引受する構想の検討と準備を進め、2021年度新学期からの共同引受開始をめざします。



4本柱の活動を大切に、  
たすけあいをキャンパスに広げます

多くの組合員を  
たすけあいの輪に  
迎えよう

顔が見える  
加入

顔が見える  
給付

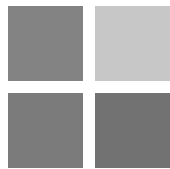
「入っていてよかった」  
と思える組合員の  
ための給付活動

学生の生活実態や  
健康・安全活動を  
組合員・大学・  
理事会と共有

顔が見える  
報告

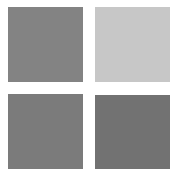
顔が見える  
予防

組合員・大学ととも  
にすすめ、キャンパス・  
社会にたすけあいを  
広げよう



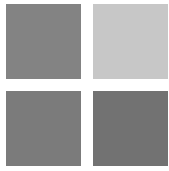
## 4本柱の活動を大切に、 たすけあいをキャンパスに広げます

報告	<ul style="list-style-type: none"><li>■ <b>大学への報告</b>を目的意識的に</li><li>■ たすけあいアンケートのデータ化</li><li>■ 給付を受けなかった組合員へ「たすけあい」参加の共有</li><li>■ 総(代)会・理事会への報告、生協内部への共済認知拡大</li><li>■ 全国共済月間の組合員参加</li></ul>
予防	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 給付事例学習会の拡大</li><li>■ 急性アルコール中毒、自転車事故防止</li><li>■ 全国共済月間</li><li>■ 事業連合と協力した食生活提案</li><li>■ 大学が行う健康づくりの取り組みへの協力検討</li></ul>



## 4本柱の活動を大切に、 たすけあいをキャンパスに広げます

加入	<ul style="list-style-type: none"><li>■ <b>すべての生協で過半数の加入</b></li><li>■ 国公立70%、私立50%</li><li>■ <b>2019新学期16万人、2021新学期新入生比60% (17万人)</b></li><li>■ <b>多くの職員・学生が加入推進に参加</b></li><li>■ 全国Web加入の取扱いの拡大</li></ul>
給付	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 共済窓口業務の転換 (<b>共済金支払受付から相談業務へ</b>)</li><li>■ 迅速な共済金支払 (共済窓口とサポートダイヤルの連携)</li><li>■ <b>共済金請求忘れゼロの取り組み</b></li><li>■ Web活用による春・夏休み対応の検討</li><li>■ 共済金支払情報、事故受付情報の見える化</li></ul>



加入者に寄り添う共済窓口での  
相談業務を行い、迅速な共済金支払を  
行います。

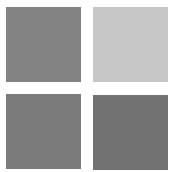
• 理由

1. 迅速な共済金の支払いのため
2. 会員生協の負担軽減、事務リスク低減
3. 組合員に近いキャンパスで効果ある取り組みを

• 会員生協では

- 共済金申請忘れゼロの取り組み、4本柱の活動を展開
- 案件審査から確定審査の行程短縮
- 共済サポートダイヤルやシステムの活用

**組合員・加入者と日々関わる会員生協だからこそ、  
組合員に寄りそい、はたらきかけることを強めたい**



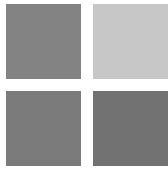
コープ共済連との新・学生総合共済を  
共同引受する構想の検討と準備

- **「学生総合共済をより安心できる保障制度に」  
「社会の中でより存在感のある学生総合共済」を  
実現し、「たすけあいの想い」を同じくする  
協同組合間協同の実現を目指しています**

たとえば…

- 学生時代は「大学生のための学生総合共済」にすべての大学生が加入できるようにし、卒業後にも「安心した生活を送れるコープ共済」につなぐこと
- コープ共済連の事業規模・システムを連携・活用することによる学生総合共済の事業強化

など



## 中期計画を進めるために

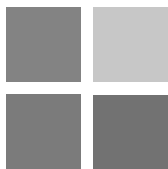


### ☆推進体制の整備

- ・ 会員生協全体で共済に取り組む体制の整備
- ・ ブロックを中心とした学びあい・励まし合いが進む共済推進体制の整備
- ・ 全国・地域での学び合いによる役職員・組織委員の知識向上
- ・ 会員生協の窓口担当者をはじめとした人材育成

### ☆協力関係の構築

- ・ 大学への報告から「無保障の学生をなくす」協力関係づくり
- ・ 全国規模での事務センター設置検討
- ・ コープ共済連との連携検討と準備



## 中期計画を進めるために



### ☆保険事業の活用

- ・ 留学生向け保険の開発検討
- ・ 必要に応じ、大学生協オリジナルの保険を活用
- ・ 仕組化保険の取り扱いを業務効率化・優先順位の観点から見直し

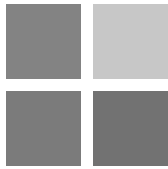
### ☆業務体制（共済連事務局）の整備

- ・ 加入者満足向上につながる共済連の業務改善と業務品質の向上
- ・ 共済連事務局の業務を発展させることのできる職員の確保・育成

### ☆財政

- ・ 2021年の加入者は、生命共済70万人、火災共済11万5千人
- ・ 支払率は3年間で、40.5%→42.6%→46.2%へ。
- ・ 2019年は新共済開始により費差損発生見込みだが、2021年には1億4600万円の費差益を試算(2021年は共同引受を実施した想定)



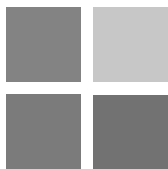


## 具体的執行課題及び 検討を進める課題

- (1)多くの加入者をたすけあいの輪に迎え入れる加入推進の課題
- (2)共済窓口など加入者との接点を大切にし、加入者満足を高める課題
- (3)組合員の声を広げ、予防活動や業務改善に生かす課題
- (4)共済の認知を高め、理解を広げる課題
- (5)コープ共済連との連携を進める課題

☆第9次中期計画は、2020年上期中に中期計画検討委員会を設置し、2020年下期より検討を開始します。

\*詳しくは、期ごとにまとめる到達課題（別表）を参照ください。



## 第8次中期計画数値目標

	2017	2021目標
①生命共済新入生加入者数	15.3万人	<b>17.0万人</b>
②新入生の過半数が共済に加入	158生協	<b>すべての生協</b>
③給付事例学習会の実施	96生協	<b>160生協</b>
④給付（共済）ボードの実施	150生協	<b>180生協</b>
⑤学生の共済募集人	149生協	<b>180生協</b>
⑥学調での共済認知度	69.1%	<b>75.0%</b>
⑦共済証書の発送日短縮	20.3日	<b>16.0日</b>
⑧共済金支払日数の短縮	9.7日	<b>8.0日</b>
⑨大学への報告	156生協	<b>すべての生協</b>



# たすけあいビジョン 2030



わたしたちの大学生協共済は2030年にならなりたい

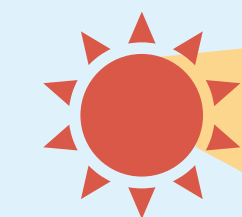
- 1 「たすけあいの輪でつくりあう  
キャンパスライフ」
- 2 「組合員・加入者の声と参加があるからこそ、  
広がるたすけあいの想い」
- 3 「大学生協共済との関わりで  
育まれる学生の成長」



スピーク

## 4つの課題

- 1 学生一人ひとりの学業継続や  
キャンパスライフに貢献する
- 2 大学や社会における相互扶助や  
協同の精神を育む
- 3 大学生協共済の事業と活動を通  
じて大学生協の価値を高め、  
大学に貢献する
- 4 「大学生協の4つの使命から  
展開する21世紀8つのビジョン」  
の実現の一翼を担う



より多くの  
声



より多くの  
参加



タヌロー



タヌリーヌ

## 大学生協共済 4本柱の活動

報告

給付(共済)ボードをはじめとした学生への報告、  
アニュアルレポートをはじめとした大学への報告、  
様々な地域社会への発信を展開。

加入

学生が学生に、直接対話の場面を通じて、  
共済の良さを、実感をもって伝える取り組みを展開。

給付

学生が学生に、困った様子の学生を見かけたら声をかける習慣がキャンパスに拡大し、  
学生と寄りそう相談活動を展開。

予防

学生が学生に、給付事例の学習や学生のリスクに基づいた、  
創意工夫溢れる予防活動を展開。



国際連合ではSDGsを掲げ、「誰一人取り残さない」社会づくりを提起している。

# 1 たすけあいビジョン2030 "わたしたちの大学生協共済は 2030 年にはこうなっていたい"

1

たくさんの学生による"たすけあいの輪"が実現し、大学生協共済の学業継続やキャンパスライフへの貢献度が高まっている。  
～たすけあいの輪でつくりあうキャンパスライフ～

2

たくさんの声と参加がつながって、学生どうしの"たすけあいの想い"が全国の大学キャンパスに響き渡っている。  
～組合員・加入者の声と参加があるからこそ、広がるたすけあいの想い～

3

学生が学び成長し、多くの大学からの共感を得て、大学や社会に対して大学生協の価値の発信がなされている。  
～大学生協共済との関わりで育まれる学生の成長～

## わたしたちの共済の想い (共済連設立趣意書より)

学生みんなが健康で安全に大学生活をおくことができるように  
もしものときは、経済的にも精神的にも支援ができるように  
給付を受けた人も、受けなかった人も、共済の活動を通じて「たすけあいのこころ」を実感し社会に巣立ってほしい  
人の気持ちを思いやれる人間になってほしい

わたしたちは先輩たちが40年前に生み、そして育てあげてきた大学生協共済の事業と活動を、2020年につなぎ、そして2030年まで選ばれ続け、存続している事業と活動として、広げ続け、強め続け、次世代につないでいくことを「たすけあいビジョン2030」として宣言します。

次世代に共済事業をつないでいく  
時代の転換点に立っている

1980年 保険の共同購入から保障事業を開始（翌1981年共済事業開始）  
2020年 共済事業開始から40周年の節目  
2030年 共済事業開始から50周年の節目

## なぜ、2030年か？

- 大学生協の共済事業開始（保険の共同購入）から半世紀。
- 今20歳の学生は32歳に。社会づくりの中心的存在に。
- 国際連合ではSDGsを掲げ、「誰一人取り残さない」社会づくりを提起している。

わたしたちは、「たすけあいビジョン2030」の実現に向けて、共済事業中期計画をつないでいきます。

## 2 たすけあいビジョン2030の実現に向けて取り組む4つの課題

### 1 学生一人ひとりの学業継続やキャンパスライフに貢献する

#### (1) 学生支援・学業継続を支援する共済

- ①総合的な保障制度の普及を通じて、無保障の学生をなくし、学業中断への対処の枠組みをキャンパスに広げている。
- ②学生に万が一の事項が生じた際には、キャンパス内の大学生協が優しく相談に応じている。
- ③「予防活動」に旺盛に取り組む中で予防効果を高め、万が一の際には、給付を受ける学生への心のケアが大学生協らしく展開されている。
- ④時代や社会環境に対応して、学生を取り巻くリスクに対応した制度改善が継続されている。

#### (2) 学生の成長につながる共済

- ①学生が「予防活動」に主体的に参加する過程を通じて、生きる力が培われている。
- ②学生生活を取り巻くリスクに対するコミュニケーションを通じて、リスクリテラシーが高まっている。
- ③食育との連携が広がり深まり、健康増進の取り組みを通じて、心身の健全な成長につながっている。
- ④「予防活動」やリスクコミュニケーションや健康増進の取り組みへの関わりを通じて、協同する力をもった人格の形成につながっている。

### 3 大学生協共済の事業と活動を通じて大学生協の価値を高め、大学に貢献する

#### (1) 顔が見える、みんなでつくるわたしたちの共済

- ①顔が見える加入 ———— 学生が学生に、直接対話の場面を通じて、共済の良さを、実感をもって伝える取り組みが、すべての会員生協で展開されている。
- ②顔が見える予防 ———— 学生が学生に、給付事例の学習や学生のリスクに基づいた、創意工夫溢れる予防活動が、すべての会員生協で展開されている。
- ③顔が見える給付 ———— 学生が学生に、困った様子の学生を見かけたら声をかける習慣がキャンパスに拡大し、すべての会員生協の窓口で、学生に寄りそう相談業務が行われている。
- ④顔が見える報告 ———— 給付（共済）ボードをはじめとした学生への報告、アニュアルレポートをはじめとした大学への報告、様々な地域社会への発信が、すべての会員生協で展開されている。
- ⑤みんなでつくることで満足の向上に ———— 給付を受けなかった学生も、仲間の学業継続に役立ててよかったと実感が持てる取り組みが全国に広がっている。

#### (2) 大学と協力して進める共済

- ①大学生協共済の事業と活動の大学への報告が、すべての会員生協で旺盛に展開されて、大学との連携が進み、予防の取り組みやメンタルヘルスへの対応、健康づくり・健康増進の取り組みが、多くのキャンパスで広がっている。
- ②大学や大学の連携する関係団体とも連携して、無保障の学生をなくす視点でのネットワークの形成に積極的に関与し、その中で大学生協（共済）が中心的なパフォーマンスを発揮している。（経済的困窮者／国際学生／合理的配慮が求められる障がい者への対応など）
- ③大学が進める最低限の保障（多くの大学で学研災・学研賠）に対する学生生活に必要な補完保障として、多くの大学で大学生協の保障制度が選択され、大学と大学生協の協業が広がり、深まっている。

### 2 大学や社会における相互扶助や協同の精神を育む

#### (1) たすけあいの想い、おもいやりの心を社会に広げる共済

- ①大学生協共済の「4本柱の活動」を通じて、人の温かさやふれあい、つながりを体感して、たすけあいの想い、協同の人格が培われた多くの大学生が社会に巣立っていっている。
- ②大学生協共済では、技術の進歩（AIやFintech）へ的確に対応しながらも、「4本柱の活動」を通じた人間的な関係づくりを大切に、温かい社会につなげる役割を通じて、社会へ貢献している。
- ③大学生協での組合員経験、大学生協共済への参加経験を通じて協同組合に対する理解を深めた学生を協同組合につないでいっている。

#### (2) 協同する力をもとに広げる共済

- ①学生どうしの協同 ———— 学生どうしが協同する力で「4本柱の活動」が全国のキャンパスに広がっている。
- ②大学との協力 ———— 大学と大学生協が協同する力で学業継続・学生支援の枠組みが強まり、広がっている。
- ③協同組合間協同 ———— 協同組合間協同を力にして、大学生協共済がすべての学生を対象に広がっている。
- ④想いを同じくする ———— 学業継続・学生支援に想いを同じくする企業や団体との協同のネットワークが広がっている。

### 4 「大学生協の4つの使命から展開する21世紀8つのビジョン」の実現の一翼を担う

#### 協 同

- 協同の力で豊かなキャンパス生活を創造する大学生協
- 協同を通じて自由なコミュニケーションを促す大学生協

#### 協 力

- 大学に協力して高等教育と研究の発展に貢献する大学生協
- 自らも学びのコミュニティとして教育と研究に協力する大学生協

#### 自 立

- 自立した事業組織として大学とその周辺社会を活性化する大学生協
- 自立した魅力ある事業の展開で、豊かな社会と文化の展開に貢献する大学生協

#### 参 加

- 組合員の参加を活発にし、協同体験を広めて、人と地球にやさしい持続可能な社会をつくる大学生協
- 組合員の参加をふまえた運動組織として、国際交流と平和に貢献する大学生協

- (1) 多様な大学生活をさまざまな事業でサポートする大学生協において、大学生協共済だからこそできることが発揮される共済
- (2) さまざまな事業との関わりで、大学生協の取り組み・価値をより強めていく共済





## 全国大学生協共済生活協同組合連合会

発行：2019 年

〒166-8532 東京都杉並区和田 3-30-22

電話 03-5307-1174（企画部）

ホームページ：<https://kyosai.univcoop.or.jp/>